

特集：2014年「オーディオ・ホームシアター展」より

## 「オーディオ・ホームシアター展 2014」見聞記

村瀬 孝矢

- 会場の使いこなしも上達、しかも出展者数が増大した

オーディオ・ホームシアター展は昨年から会場を東京お台場『TIME24』に移しての開催となっている（ゆりかもめ「テレコムセンター駅」、またはりんかい線「東京テレポート駅」利用）。このビルをほぼ貸し切り状態として使用、フロアは1階、2階、3階、18階であり、昨年より3階部分が増え、より充実した会になった。なお会期は3日間（10月17～19日、無料）である。



会場：TIME 24 周辺



1階 総合受付

会場周辺はビジネス街という印象だが、TIME24のビルに一步足を踏み入れれば貸し切り状態に近いこともあるが、1階フロアからオーディオ・ホームシアター展の雰囲気を感じ、かなり賑やかな感じをふりまいている。昨年からの反省もあったのだろうか、雰囲気としては悪くない。そう言う意味では、昨年一度経験していることがかなり活かされたと思えるのだ。またこれはちょっとしたことだが、1階のHALL 3の会場では無料コーヒーサービスを行っていて、オーディオファンへの配慮と言うことから良いことだと思えた。サロン風な感じを醸し出し、かつソファを用意したブースもあるなど、じっくり時間を割いて聴いていただきたいという心づもりが感じられる。

その他、各社、各ブースの対応ぶりにも手慣れたところが見られ、どこも会場作りから音のデモにまで改善されたところが見受けられるのだった。特に1フロア分を増やした効果も大きいようで、1社で1部屋という使い方が増え、じっくりと音を鑑賞して欲しいという接待の場が用意されたのである。

ちなみに出展者数は昨年が84社・団体であり、今回は92社・団体とかなりの増加である。要因はもちろん「ハイレゾ」にあることは疑いのないところだが、オーディオ、ホームシアターに取り組もうとする意欲が出てきた表れであろう。

- 「ハイレゾ」オーディオ色の様相

展示会のテーマは「Hi-Fiからハイレゾへ」だが、その通りに見事にハイレゾで統一された様相

を見せている。1階の HALL 1 セミナールーム、HALL 2 協会テーマブース、HALL 3 ブランド別ブース、2階の個別ブース、セミナールーム、3階のブランド別ブース、18階の音のサロンなど、ハイレゾ対応コンポ、ハイレゾソフトなどの紹介で埋め尽くされたのである。

もっともこの元と言えは PC オーディオやネットオーディオなのだが、今やその名もハイレゾに統一されたと言っても良いであろう。むろんソフトを入手するにはインターネットからのダウンロードが主体になるが、一部は BD オーディオディスクというパッケージものも登場している。これらはいずれも CD を越える豊富な情報量を特徴としているが、各所で試聴用に使用されるソース源がハイレゾとなったように、これほどまで早いスピードで採用されるとは誰も予想していなかったのではないかと思う。この背景にあるのは音の良さもそうだが、入手のしやすさ、ソフトの充実ぶりなどがあることはもう間違いない。

さて個別のブースで見ても、HALL 1 の協会セミナーは基調講演から細目のセミナーなどがハイレゾ関連、HALL 2 は協会テーマのハイレゾ製品の大量展示、HALL 3 は個別ブースなのにヘッドフォンからコンポ、スピーカー、パーツまでハイレゾソースによるデモ、2階のセミナールームも BD オーディオディスクグループのデモ、18階の音のサロンもハイレゾコンポ & プレーヤー & DAC の試聴会と、これほどにハイレゾに関連する情報や機器の収集として最適な展示会となったこともめずらしいのではないだろうか。



HALL 1：山之内 正氏による  
基調講演「世界の最新ハイレゾ事情」



HALL 2：ハイレゾ対応機器を  
一堂に集めた協会テーマコーナー

ちなみに HALL 2 の参加ブランド数は 12 社、HALL 3 の参加ブランド数は 18 社と合計 30 社である。なおこの HALL 3 のトピックは輸入コンポ群が集まったことからソファを使ってのゆったりした雰囲気鑑賞スペースや、無料コーヒーサービスの実施などであり、ちょっとした心配りが、これまでのオーディオ展示会にはないフランクで欧州風を醸したことがよいと思えた。



HALL 3 サロンの雰囲気を演出した完実電気ブース



2階と3階は個別ルームによるオーディオ試聴ブースが多く揃い、まさにオーディオの展示会として来場者も歓迎している様子である。いずれのブースも用意した席はいつも満席の状態で、しっかり比較試聴したい来場者の要望に応えている。一部は部屋の狭さもあって椅子を用意できないところもあったようだが、熱心な来場者からの質問に丁寧に答えコンポの特徴などを伝える努力がうかがえた。この階で印象に残ったのは個性的なスピーカー群が多く集まっていたことである。もとは木工製品屋さんが得意の技術を生かした削り出しキャビネットによる、木質を活かしたスピーカーシステムを展示したり、円周に配置した複数ユニットにより1台でステレオ再生するとか、円筒形振動子によるスーパーツイーター、多点駆動スピーカー、ユニークな小型高性能なアクティブスピーカーなど、ハイレゾ時代に見直されるだろうという予想のもと、スピーカー開発に力を込めたことが伝わってくるのである。



2階のユニークなスピーカー展示

3階はオーディオブランドもの大手メーカーが集合したフロアである。ハイレゾコンポ、同モバイルコンポ、高性能ヘッドフォン、さらにAVアンプの新機軸ドルビーアトモス対応ほか、特に注目される老舗テクニクスのハイレゾコンポ試聴ブース、そしてNHKの8Kスーパーハイビジョンブースと、見どころの多いフロアで存在感を見せている。これらは個別の部屋が確保できたことから試聴などもしっかり行えるようになり、来場者へのアピールが良くできたと思われる。



3階 ソニー展示ブース



3階 Technics 試聴室



3階 パイオニアブース



3階 オンキヨー・ティアックブース



3階 JVC ケンウッド試聴室

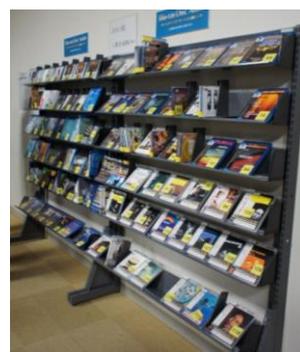


3階 NHK 8K デモ

ところでハイレゾパッケージで関心が寄せられている BD オーディオディスクグループは 2 階に部屋を設けていたが、ハイレゾ対応の唯一ディスクものとして注目された。オーディオファンがライブラリー化できる高音質音楽ソフト、既存の BD プレーヤーで再生できるなど、イージーさとも結び付いて人気も高まっている。今回は参加メーカーが増えたことをアピールし、着々とハイレゾソースのポジションを明確にしながら確立しているのだ。むろん合同セミナーも積極的に行っている。



ブルーレイディスクオーディオプロモーショングループのブース



18 階の目玉はハイレゾの本家と自負するソニーブースと、合同の AV アンプ&ハイレゾ対応ブース、ミュージックバードによる公開収録&セミナー、さらに音のサロンらである。

ソニーはハイレゾマーク発祥地なことから、オーディオコンポからネットオーディオ、モバイル&ヘッドフォンと商品群の多様さを強調、取り組みの早さとソフト展開まで力を込めているところを見せつけ、デモも行っていた。



18階  
ソニー試聴室



18階 ミュージックバード



18階 4社合同デモブース

● 連日惜しみなく実施の「音のサロン」

この展示会に来場するオーディオファンが楽しみにしているのが「音のサロン」である。今回も18階の特別ブースで連日行われたが、ハイレゾをテーマにしたのはもちろんのこと、最新アンプ、最新スピーカーの比較試聴会、ハイレゾ DAC 試聴会、真空管アンプ試聴会、価格別コンポ試聴会ととても多彩な催しで人気を得ていた。いつも熱心に聴きいるファンで埋め尽されるが、入れ替えに苦労する様子も伺えるほどでもある。席数が前回と同じ会場だから約64名ほどと少ないのが残念であり、つねに満席状態ということへの対応を図らないといけないと思えた。他には女性ボーカル&ジャズソフトの体験会、モノラルレコード体験会、そして新たに加わった女子オーディオセミナーと、1日最大6回講演を行うという大盛況、大奮闘ぶりは感心の一言である。



毎回大盛況の18階「音のサロン」

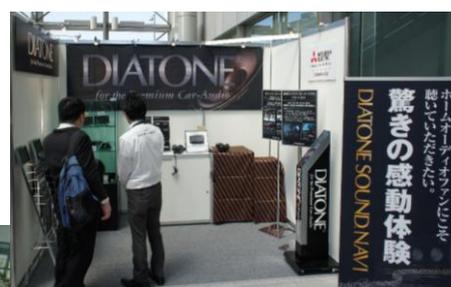
この他、展示会の恒例行事では「工作教室」も上げられる。家族向けオーディオ工作教室なのだが、今回は「超小型オリジナル高級イヤホン」の組み立て、「DSP方式のラジLSIを使った超小型ステレオラジオ製作教室」など、各2回、都合4回の実施である（有料）。場所は1階正面入り口右という一等地、しかも明るい会場なので目立つとともに低学年生が工作に楽しんでいる雰囲気もよかった。



この会場脇はカーオーディオコーナーである。パイオニア、三菱の 2 社が参加しているが、実車持ち込みによる試聴も行われ、熱心なファンが立ち寄っている。このカーオーディオにおけるハイレゾの取り組みに来場者は関心を寄せると思われるが、どのように対応したのだろうか興味湧く。



パイオニア・カロツェリア



DIATONE

ところで実は今回から実施されなかったものがある。それが「生録会」である。これまでは恒例行事のように連続して催されてきたが、残念ながら無くなってしまったのである。「生録会」(レコーディング体験会)と呼んでいるが、オーディオビギナーの方から上級者まで、また生演奏の音源(ソース)が手に入ると有料でも申込者が多数あった人気コーナーだったのだが、残念なことに今回は開催されなかった。デジタルの録音環境がモバイル機器やスマホの影響を受けたのかも知れない。但し、協会としては別枠で開催を企画しているようだ。

また前回から無くなったものではホームシアター体験会もあるが、こちらは形を変えてのルームチューニングと映像キャリブレーション調整セミナーが実施されていた。オーディオ界がハイレゾをきっかけにして新たなフェーズに入ったということかも知れない。

● まとめ

今回は新会場での2度目の「オーディオ・ホームシアター展 2014」である。出展者数もさらに増えたこと、フロアも増やしたこと、ハイレゾという大きな話題があったこと、復活したオーディオブランドがあったことなど、昨年とは風向きが変わったことを肌で感じる事ができた。それが来場者数にも反映し、予定を大きく上回る結果を残したというから喜ばしい。オーディオファン層の高齢化がよく言われるが、今回の会場に居合わせてみると分かるのだが、若いファン層がかなり増えたように感じる。恐らくこれもハイレゾの影響かと思う。ヘッドフォンからマニアックなコンポまでが対応、ところ狭しと一堂に介したのだから、ハイレゾを聴く、見る、触れる、と「行ってみよう、みたい」という要素が高まったのである。

それに伴い既存のオーディオソフト定番である CD の影が薄くなってしまったようにも見受けられるが、新しい取り組みを優先せざるを得ない展示会の使命を考えれば許されるだろうと思う。それよりもハイレゾから得られるオーディオの性能や音質の変化と向上、環境への対応と配慮など、オーディオファンのこれからの心構えとして提案することが大切であると考えたい。

この展示会から、オーディオ&ホームシアターが何か新しい世界へと踏み出した、そんな印象を持ち帰ってくれるファンが多く誕生したのではないだろうかと思っている。また新しい音源への対応機器がこれほど1ヶ所に集まり、比較視聴できる展示会は世界の中でも屈指のものという確信を得ることもできた。ハイレゾ対応の最新モデルが集まっている、これこそ日本の底力ではないだろうか。これを機にオーディオ&ホームシアターがより発展して行くことになるであろう。